

巻頭言

2023 年度始業礼拝 「神学するという旅路」

創世記 12 章 1～2 節 神学部長 才藤 千津子



1 主はアブラムに言われた。

「あなたは生まれた地と親族、父の家を離れ 私が示す地に行きなさい。

2 私はあなたを大いなる国民とし、祝福し あなたの名を大いなるものとする。

あなたは祝福の基となる。」

(聖書協会共同訳)

新入生の皆さま、西南学院大学神学部へのご入学、おめでとうございます。在校生の皆さま、新年度も共に学びを深めていきましょう。また、ご来賓の皆さま、いつも神学部のためにお祈り、お支えくださり、感謝申し上げます。そして最後に、教職員の皆さま、今年も共に歩んでまいりましょう。

旅の出発

さて、神学部での学びの新しい一年に当たって、今日は、キリスト教のみならず、ユダヤ教でも、イスラーム教でも、信仰の祖先として非常に重要な人物とされる「アブラハム」の旅の出発の場面を読んでいただきました。

新入生の皆さんのほとんどは、新型コロナ感染拡大の只中で高校生活を送られたと思います。誰もが、明日どうなるか見通しが立たない不安の中を生きてきました。そして、そのような中でロシアがウクライナに侵攻し、世界を巻き込む戦争が始まりました。ここ数年、私たちは大変な時代、危険な時代を生きてきたのです。

聖書には旅のイメージが多く用いられ、苦勞しながら旅をする人々がたくさん登場します。自動車も飛行機もなかった聖書の時代の旅は、危険の連続です。そして、私は、神学を学ぶ旅も、同じように、長い旅とたとえることができると考えます。新入生の方々にとっては、今日はその旅の第一歩を踏み出す日です。在校生にとっては新しい一里塚が刻まれる日だともいえるでしょう。

先ほど読んでいただいた「アブラム」と呼ばれている人は、後に神から、「アブラハム」(多くの国民の父の意味)という名前を与えられるので、一般的には「アブラハム」と呼ばれます。彼は、生涯変わることなく神に聴き従う人生を送ったことで、イスラエルの部族の源とされ、後に「信仰の父」と呼ばれた人です。

アブラハムは、古代文明が発祥したメソポタミア地方において裕福な遊牧民の家に生まれたと言われます。今日の聖書の箇所創世記 12 章では、ハランという所に住んでいた彼に、

神は、故郷を離れて新しい土地へ行くように示します。アブラハムは神の命令を聞き、ただちに血縁の人々と別れ、故郷を離れ、妻サライと甥ロトを連れて、まだ見たことのない約束の地カナン(現在のパレスチナ地方)に向かって旅立ちました。何千キロもの距離を歩く長く危険な旅の始まりです。

今日は、このようなアブラハムの旅の出発の場面を読み、「神学する旅路」について私たちが教えられる4つのことをお話ししたいと思います。

1. 一人きりではない旅

第一に、神学の旅は一人きりの旅ではないということです。初めての知らない場所へと踏み出す旅は危険で孤独ですが、アブラハムは一人ではありません。妻サライと甥ロトと一緒に旅です。そして何より、いつも神がともにおられます。

「神学」とは、「神についての語り、神についての学」です。そのように深遠な学問の旅を一体どう始めたらよいのだろう、と不安に思っている方もおられるでしょう。しかし、私たちは、孤独に旅する必要はありません。なぜならば、私たちの前に、すでに信仰の旅、神学の旅をしたたくさんの先達がいるからです。彼らも、旅の中で様々な喜びと苦難を経験しました。

神学研究の一つの方法は、様々な神学者たちの著作を読むこと、そして彼らがその時代の課題と取り組んで、どのような神学的探究を行ったのかを検討することです。これら先人の書いた物を読み、深く考えることを通して、私たちは彼らと一緒に旅をすることができます。そして彼らの知恵から学ぶことができます。

私は、最近、宣教師パウロの旅の一部を辿る旅行をしました。今はトルコ共和国の一部です。約2千年前、パウロは、地中海沿岸各地に教会を作り、何千キロも伝道して回りました。私は、パウロが歩きながら感じた風、彼が見たエーゲ海や荒地の風景、彼が歩いたかもしれない古代遺跡の石畳の道を実際に経験して胸が躍りました。

聖書や神学書を読む時には、ぜひ、その著者の人生や生活を想像してみてください。同じ神学者のものを、何冊か読んでみてください。また、その人がどんなふうに育ったか、どんな時代をどのように生きたかを学んでみてください。そうすれば、その人の人となりがわかってきます。また、一見、私たちの日常とかけ離れた難しい神学議論のように思えることが、実はその人の現実の生活の闘いや人間としての悩みから出てきた切実な言葉だということが理解できます。彼らの著作には、そのような苦勞の足跡がはっきりと残っているはずです。

神学を学ぶことは、私たちの時代よりはるか昔に生きた先人たちの生き方や思想と対話し続けることです。また、現代を生きている教会をはじめ、世界中の人々と対話することです。神学の旅路を歩み、神学について理解を深めてゆくことは、様々な思索を重ねた信仰の先達や仲間と歩み続ける共同体の業なのです。

2. 慣れ親しんできたものから離れ、大胆に問いを発する旅

二つ目に、神学の旅は、それまで慣れ親しんできた環境や価値観から離れることから始まるということです。アブラハムに対して、主なる神は、「あなたは生まれた地と親族、父の家を離れ 私が示す地に行きなさい。」と言われた、とあります。アブラハムは、それまで親しんできた全てのものを手放して、神の導きに身を委ねます。これは、神学する旅にも当てはまると思います。

神学をするということは、それまであたりまえと思っていた世界、故郷や家族に守られていた安全な世界から離れて、様々なことに疑問をもち、批判的に考え、勇気を持って問いを発する世界へと入ってゆくことです。そこでは、それまでの自分のものの考え方や価値観が否定されることもあるでしょう。その意味で、神学を学ぶということは、自分の不完全さに気づき、謙虚になることです。

聖書は、簡単に答えを与えてくれる書物ではありません。「たった一つの完全な答え」が存在するのではなく、いくつもの答えが存在します。私たちが学問をする目的は、「一つの完全な答えを見つけること」ではなく「問いを発見すること、また大胆に問い続けること」なのです。

3. 人生が変えられてゆく旅

そして、そのことは、第三の事柄へと続きます。アブラハムの人生は、旅を続ける中で変えられていきました。彼は、神に従って生きるということを、様々な試練を通して学んで行ったのです。これを神学の学びの旅で言い換えると、神学の旅は、私たちを、単に思考することを超えて、世界を良くするために行動することへと導いてゆくということです。

神学はただ机上の抽象的な議論に終わるものではなく、また理性や知性だけが関わるものではありません。「より多くの知識を得る」ことは大事ですが、それだけでは十分ではないのです。神学することは、私たちの日々の生き方と深く結びついており、私たちの人生や世界を大きく変えてゆく可能性を持っています。

優れた神学的思惟は、この世界の中で現実起こっている何らかの個別的・具体的課題に取り組む中から生まれて来ました。その意味で、新入生の皆さんには、ぜひ、今、世界で何が起きているか、現在、社会の中で誰が困難の中に置かれているか、誰がどのように弱くされ苦しめられているかを考えていただきたいと思います。優れた神学者、あるいは聖書の書き手たちも、それぞれの時代状況の中で、具体的な問題に取り組みながら神学して行ったのです。

4. 神に祝福された旅

最後に、主なる神がアブラハムに語りかけられたこの言葉に注目したいと思います。

「私はあなたを大いなる国民とし、祝福し あなたの名を大いなるものとする。あなたは祝福の基となる。」(創世記 12: 2)

アブラハムの長い旅を導かれたのは、神であります。行先もわからないままに出発したアブラハムでしたが、彼は、最終的にカナンという約束の地に導かれて行き、彼の子孫は増えてゆきます。結果的に、神はアブラハムを大いに祝福されたのです。そして、アブラハムに与えられた約束と祝福は、彼個人の人生をはるかに超えた人類史的な意味を持つことになりました。

皆さんの神学の旅路も、神の祝福のもとにあります。そして、皆さんは、目に見えない力に動かされながら、個人を超えて社会に貢献することへと導かれて行かれることでしょう。

今、世界では、コロナ・パンデミック、環境破壊、戦争の危機と、地球規模で様々な深刻な問題が起こっています。神学部は、そのような激動の時代の中でも、時代を超えて変わらないもの、目に見えないけれども大切なものについて、共に考え、対話する学びの共同体でありたいと願います。新入生の皆さん、そのような共同体へようこそ。これから一緒に学んでゆきましょう。

お祈りいたします。

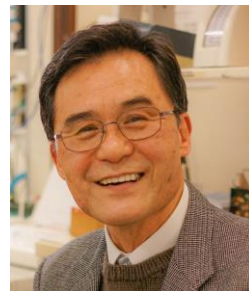
「平和の主なる神、今日、神学部は、新入生を迎えて、2023年度の新しい歩みを踏み出そうとしています。私たちをあなたの前に立たせてください。私たちのこれからの歩みを導き、支えてください。そして、私たちのために祈り、支えてくださる多くの方々を祝福してください。

今この時も、世界中で困難の中にある人々の上に、戦争のただ中にある人々の上に、あなたのあわれみが豊かに注がれますように。主イエス・キリストのみ名によって祈ります。アーメン」

2022 年度卒業礼拝説教 2023 年 3 月 17 日(金) 於：西南学院大学チャペル
「ただ主イエスに目を注いで」

ヘブライ人への手紙 11 章 39 節～12 章 3 節

福岡城西キリスト教会牧師 宮井 武憲



このたび卒業を迎えられました皆さま、ご卒業、おめでとうございます。

皆さまは、これから新しい歩みへと踏み出そうとされ、大きな希望と少しの不安の中におられると思います。ときに戸惑うことやこの道で良かったのかと迷うこともあるかもしれませんが。しかし私たちも、そして聖書に出てくる多くの人々も、誰もが悩み、迷い、戸惑いながらも人生を歩んできましたし、歩んでいます。

でもそこに、イエスさまはいつも一緒に歩んでくださって、いろんなことが起こる中で、「人生は捨てたものじゃないよ」と導いてくださる。わたしは、そう信じております。どうぞ、「夢」を失わないで、希望を持って歩んでください。

さて、今日一緒に聴きますヘブライ人への手紙。先ほどは、11 章の終わりからを読んでいただきました。

この 11 章は、「信仰とは、望んでいる事柄を確信し、見えない事実を確認することです」という言葉で始まります。そして「信仰によって」という言葉で旧約聖書に登場する「人物」が何人も紹介されています。「信仰によって」アベルは、「信仰によって」アブラハムは、「信仰によって」モーセは、など続きます。

たとえば、信仰の父と言われるアブラハム。「信仰によって、アブラハムは、自分が財産として受け継ぐことになる土地に出て行くように召し出されると、これに服従し、行き先も知らずに出発した」（8 節）とあります。

アブラハムは、神さまの言葉に従って行き先も知らずに旅立ったのです。75 歳でした。すごい信仰だと思います。しかし、その後のアブラハムの歩みを見てみると、まったく「信仰のゆえに」とは言えない行動をしますし、その姿は私たちとあまり変わらないように思います。そしてそれはアブラハムだけではありません。モーセも、ダビデも、他の者も同じような歩みをしていきます。

それでも、「この人たちはすべて、その信仰のゆえに、神に認められながらも」と言われるのです。

その「信仰のゆえに」と言います。ここでは、「わたし」とか「あなた」という、「わたしが信じた、イエスを選んで信じた」という私たち人間の側からのことではなくて、神さまの側からのことを言っていると思うのです。

それは、「望んでいる事柄、約束されたものが、確かにある。目には見えないけれど確かにある、信じるべきものが確かにここにある」。私たちが信じようと信じまいと、知っていようと、分からないままдейよう、と、「約束されたもの、信じるべきものは確かにある」。その確かさに、神さまの確かさに、信仰の根拠はあるのだということだと思うのです。

私たちは、戸惑い、迷うものです。

アブラハムも、モーセも、ダビデも、主なる神さまが共にされると信じつつ、なお戸惑い、迷い、時には疑いながらも、それでも微動だにされない神さまから離れないで、ただ、確かな神さまに顔を向けて「どうしてですか」と叫ぶものでした。それが「信仰によって」と言われていることだと思うのです。

ですから私たちは、戸惑い、迷い、疑いながらも、私たちの信仰の創始者であり完成者であるイエス・キリストに目を注ぎ、イエスさまから離れないで、ただイエスさまに顔を向けて「どうしてですか」と叫ぶものでありたい。そう願うのです。

しかも私たちが、「自分に定められた競争を忍耐強く走りぬこう」と言っても、他の人と比較する必要はありませんし、他の人と競争する必要もありませんし、勝ち負けも関係ありません。私に与えられている歩み、私にしか与えられていない歩み、あなたにしか与えられていない歩みをイエスさまに目を注いでイエスさまと一緒に歩んでいこう、そのように言われているのです。

そのようにして歩む私たちだけけれど、39 節には「その信仰のゆえに神に認められながらも、約束されたものを手に入れませんでした」と記されています。約束されたものを手に入れることができなかったことで、信仰のゆえに認められながらも、神さまの約束は実現せずに、すべて終わってしまった。そうなのでしょう。

私たちが信仰の創始者であり完成者であるイエスを見つめて歩んだとしても、結局空しく終わる。そうなのでしょう。

確かに私たちこの世に生きているものは、人であれ、動物であれ、「この世の生の終わり」に向かっていることは避けることができません。だから、死はすべての終わりだ、あとは空しく消えていだけだと考える人もたくさんいます。

しかし私たちは、ただ「終わり」に向かって生きているのではありません。「死」が生きる目的ではありません。この世の終わりは破壊と虚無ではありません。

私たちがこの世を生きるために神さまは、私たち一人一人に「いのち」を与え、一人一人と一緒に歩み、その人に与えられた「いのち」を豊かに歩むようにしてくださっているのです。そして、「人生を豊かに生きよ」と励ましてくださっているのです。

私たちのいのちは「死」をもって終わるものではありませんが、その先は何があるのでしょうか。ヘブライ人への手紙の筆者は、神さまが計画し約束されている「さらに、まさったもの」があり、そこに向かって進んでいる、そう言います。生と死を支配しておられる復活の主イエスは、確かに生きて、私たちと共におられるからです。そしてこのイエスさまが、わたしと一緒に、あなたと一緒に歩んでおられるのです。

「信仰のゆえに、神に認められながらも」という言葉は、この世を歩む私たちにも与えられています。

クリスチャンであろうとなかろうと、私たちが気づこうと気づくまいと、一人一人に神さまから、それぞれに与えられたこの世の人生を歩むとき、いろんなことが起こり、つらい経験も嬉しい経験もし、ときには人に知られたくないことも起こる中で、見えない神さまの御手に導かれて、神さまに背中を押していただく。そして「わたしは、あなたと一緒に歩む。あなたを見放すことも見捨てることもしない。だからわたしと一緒に歩もう」と神さまは約束してくださっているのです。

神学部を卒業される皆さまお一人お一人の人生も、同じように神さまに導かれています。イエスさまは、あなたと一緒に歩んでくださって、あなたにしか与えられていない歩みを一つ一つ積み重ねて、そして「あなたの歴史」をあなたと一緒に作っていくと約束されているのです。

また、私たちの教会の歩みも同じです。良いときもあれば、悩み、戸惑い、時には歩みが止まってしまうような事件に遭うようなことも起こってきます。できれば隠したくなるような、触れられたくないような「負の遺産」を背負うこともあります。そのことで牧師も教会員も動揺し、なすすべもなく途方くれることも起こるかも知れません。

しかしそれでも「信仰のゆえに神さまに認められながら」と言われるのです。それは、そのような事件に遭うとしてもそこで終わりではない。その教会の歴史が途切れることがないからです。

その触れられたくないことも、その教会の歴史の「1 ページ」です。しかし、大切なときとして教会がそのことに向き合い、祈り合い、痛みをさらけ出す大事なときです。そのようなときほど私たちは、神さまに向かい合い祈る。祈るしかない。神さ

まに真正面から向かい合い祈る大切な時として与えられているのです。

そしてそこに、「望んでいる事柄が、約束されたものが確かにある。目には見えないけれど確かにある」。神さまはそれを指し示しながら導いておられる。その「信仰のゆえに」、確信をもって神さまに目を向けるとき、教会は終わらない。イエス・キリストの教会は立ち続けるのです。そしてそこにイエス・キリストは確かに立ち続けておられる。決して見捨てることはなさらない。私たちと一緒に悩んで、苦しんで、何とかして解決の道を示そうと祈り続けておられるイエスさまがおられるのです。そのようにして教会はそれぞれの歴史を紡いでいくのではないのでしょうか。

そのとき私たちは「約束されたものを手に入れることはできない」かもしれません。しかし教会の歴史が続く限り、「望んでいる事柄、約束されたもの」は確かに消えることはありません。私たちはそのようにして教会の歴史の「1 ページ」を担い合っているのです。だから、どんなに「負の遺産、隠したい歴史」と思われるようなことがあっても、その「1 ページ」は、の教会の歴史をつないでいる大切な一部なのです。

そのとき、「約束されたもの」は手に入れることはできないとしても、必ず与えられる。そしてその歴史を担ったすべての人が「約束されたもの」を共に喜び合うことができる。その約束の中に私たちは確かにいるし、その恵みを一緒に喜び合う者にくださるのです。主イエスは確かにそこに一緒におられる。そこに私たちの信仰がある。だから私たちは、ただ主イエスに目を注いで、ただ主イエスにより頼んで歩み続けたいのです。

私たちは、ただイエス・キリストに目を注いで、イエス・キリストの福音を生きて、証しして、それぞれに与えられた教会の新しい歴史を互いに協力しながら一緒に作って参りましょう。

2023 年度 卒業予定者紹介

「真の礼拝がもらえる教会」

大学院博士課程前期 2 年 原田 仰



私は在学期間中に地方連合や全国規模で集会に参加、または企画した人の生の声を聴く機会が幾度かありました。ここ最近は集会を開くにも困難の多い数年間でした。特に青少年を対象とした集会の企画者の方は相当頭を悩ませてこられたと思います。そこに関わった方々のお話、そして集会の様子を受けての考察を聴く中で興味深い言葉がありました。それは、集会の参加者は「プログラム」だけではなく、「プログラム間」を楽しみ、求めているのではないかということです。「なるほど」と思いました。今思えば、中学生の頃に集会の中の「フリータイム」を第一の目的として参加したことがありました。まさに「プログラム間」が中心です。その「プログラム間」に、参加者との仲がより深まり、「分かち合いのプログラム」の中でも遠慮なく自己表現ができるようになっていき、他者と意見を共有し合う喜びを獲得し、よりこの喜びに与りたいと「学ぶプログラム」にも真剣に向き合っていくようになりました。「プログラム」が充実すると、「プログラム間」もまた深く充実します。その循環が集会の中で、数年にわたって自らを育んでくれていたことを思い起こしました。

この数年間、諸集会だけでなく、教会においても打撃を受けてきたのが「プログラム間」です。オンラインでの礼拝は相互コミュニケーションに難がある、また集ったとしても礼拝式が終わればすぐ帰宅せざるを得ない。そういった状況が続きました。集う一人ひとりがどのような中で生きているのか、何に悩まされ、何を喜んでいるのか、そんな自分たちの中にイエスがどのように生きておられるのか、その分かち合いがなされる機会と、それがなされるまでの「促し」が失われていったと思います。

人びとは神様を礼拝するために、日曜日教会に集います。しかし、神様に尽くすだけではありません。礼拝を捧げる神への応答者でありながら、新たな一週間を生きる恵みをそこで神からいただくのです。とはいえ、残念ながら「礼拝式」だけで全員が満たされているとは限りません。人は普段いただいている恵みにさえ気づけない弱さを抱えています。そんな弱さを助けていたのが、教会学校などの他の「プログラム」や、食事の時や立ち話、遊びの時間、奉仕とその準備時間などの「プログラム間」だったのではないかと思います。申命記 6 章では子どもにいかなる時でも神の教えを語り聞かせ、そのしるしを覚えとして額に、さらには家の戸口の柱にも書き記せと語られています。これはまさに、教会のすべての「プログラム」と「プログラム間」が果たしていることではないでしょうか。私たちはこれら全てを通して真の礼拝を捧げられるよう、力添えできたと祈ります。

卒業予定者の招聘について

卒業予定者の赴任先については、原則として、神学部長が日本バプテスト連盟常務理事と協議の上、その紹介にあたっています。招聘についてのお問い合わせは、直接下記にご連絡ください。なお神学生が神学の学びに集中できるよう、お問い合わせは卒業年度に入ってからお願い致します。

【連絡先】神学部長 才藤 千津子

住 所：〒814-8511

福岡市早良区西新 6-2-92

西南学院大学 学術研究所

電 話：092-823-4210 (才藤研究室)

メール：c-saito@seinan-gu.ac.jp

2022 年度 卒業生紹介

【神学部キリスト教人文文学コース】 8名

以下、氏名公表許可者のみ掲載

- 岩本 願
 - ②現代日本とスピリチュアリティ『千と千尋の神隠し』からみる日本人の神の捉え方
 - ③ヒラルド ロドリゲス
- 江頭 拓哉
 - ②強制収容所経験者ヴィクトール・フランクルの死生観と生きる意味
 - ③才藤 千津子
- 柴田 直旺
 - ②アウシュビッツ収容所でなぜユダヤ人が虐殺されたのか ～同じ過ちを二度と繰り返さないために～
 - ③濱野 道雄
- 清水 彩花
 - ②牧会的対話の目的と働き-E. トゥルナイゼンから学ぶ
 - ③才藤 千津子
- 三木 彩
 - ②賛美歌と唱歌 その歌詞の変遷と時代背景
 - ③須藤 伊知郎

- 松木 智靖
 - ②キリスト教社会福祉における「救い」とはなにか
 - ③才藤 千津子
- 中島 瑞樹
 - ②日本のプロテスタント系のキリスト教学校において、学校のチャペルは礼拝なのか
 - ③濱野 道雄

①推薦教会 ②卒業(修了)論文
③担当教員 ④赴任先及び進路

【神学部研修生】 2名

- 湯川 洋久
 - ①福岡城西教会
 - ④霊水キリスト教会
- 石原 誠
 - ①常盤台教会
 - ④選科進学



2022 年度 西南学院大学神学部及び大学院神学研究科卒業礼拝
(2023 年 3 月 17 日 於：西南学院大学チャペル)

2023 年度 入学生

神学部出張公開講演のご案内

【学部】

1 年次（キリスト教人文文学コース） 10 名

以下、氏名公表許可者のみ掲載

（氏 名）

小橋 健吾
松永 峻
柿本 ひなた
倉本 駿汰
西村 妃晶
山本 修平
山本 珠生
米倉 勇

【選科】 1 名

（氏 名）（推薦教会）

石原 誠 常盤台教会

【大学院】 2 名

（氏 名）

博士前期 1 年 中島 瑞樹
博士後期 1 年 樂満 大樹

《 2023 年度 神学部・大学院神学研究科 学生人数表 》

学部	専攻科	4 年次	3 年次	2 年次	1 年次	計
神学コース		1	1			2
人文学コース		15	10	10	10	45
選 科			1			1
専 攻 科						0
合 計		16	12	10	10	48

*カリキュラム上、選科 1 年は学部 3 年次、2 年は 4 年次、3 年は専攻科にあたる

大学院	博士後期 3 年	博士後期 2 年	博士後期 1 年	博士前期 2 年	博士前期 1 年	計
合 計			1	3	1	5

研究生・研修生		0
---------	--	---

総 合 計	53
-------	----

かねてより神学部では、全国の「地方連合」枠で、年 2 回を目途に出張公開講演を行ってまいりました。今年度は、**須藤伊知郎教授（新約聖書学）**と**金丸英子教授（バプテスト史）**の二人の教員が出張講演を担当いたしますので、ぜひお申込みくださいますようお願い申し上げます。

講演者の交通費・宿泊費はすべて当方で負担いたします。また、講演料は不要です（但し、当該講演の前後に設定された別枠での御奉仕— 例えば礼拝説教奉仕等— についてはこの限りではありません）。新型コロナウイルス感染拡大以降、直接お会いしての講演会は以前よりも難しくなっていますが、zoom などインターネットを利用して講演会を実施することもできます。

神学部では、この出張公開講演が全国諸教会の皆さまと神学部とを結ぶ架け橋の一つとなることを願っております。貴地方連合がこの機会を「将来伝道者になる人々」と神学部の出会いの場としてもご利用くださいますよう、ご案内申し上げます。

お申し込みの際は、私どもまで、ご希望の時期・主題・講師等を具体的にお伝えください。今年度、須藤教授と金丸教授がご提供できる講演のテーマとしては、たとえば以下のようなものがあります：「新しい翻訳『聖書協会共同訳』、何が変わったのか?」「バプテスト史にみる教会の自立と協力」。ご連絡は、神学部長宛てメール（c-saito@seinan-gu.ac.jp 件名＝「出張公開講演の件」）にて、お願いいたします。（なお、できるだけご希望に沿うよう努めますが、組み合わせ次第ではそうならない場合もありますことを予めご了承ください。）

在 主 神学部長 才藤千津子

書 評

『どう読むか、聖書の「難解な箇所」「聖書の真実」を探求する』

青野太潮 著 / 株式会社ヨベル 2022
神学部教授 濱野 道雄

本書は西南学院大学名誉教授である青野太潮氏により、『どう読むか、新約聖書：福音の中心を求めて』（2020）に続く好評第2弾として出版された。内容は、書名通り「どう読むか、聖書の『難解な箇所』」を福音書やパウロ書簡から語るⅠ部と、「第一コリント書研究：パウロから読み解く『十字架につけられ給ひしまなるキリスト』」のⅡ部からなる。それぞれ12項目からなっているが、これらはもともと日本バプテスト女性連合の月刊機関誌『世の光』での、Ⅰ部は2021年度、Ⅱ部は2007年度の連載に大幅な加筆訂正をしたものだからである。よって一般読者に語り掛ける読みやすさを保ちつつ、『世の光』掲載時には無かったであろう注釈や、他の文献との関係や、聖書の新しい翻訳への言及等もあり、読者はより理解を深めることができる。

本書には、聖書翻訳や教会の歴史の中で一つの解釈では済まない「難解な箇所」がいくつも集められており、ギリシア語原典に遡りつつ、しかもその聖書の使信に関連している現代の出来事への言及もされつつ、「聖書の真実」が探求されている。既に出されたいくつかの書評が記す通り、本書は聖書学の専門的研究の書であると同時に、一般読者にとって有意義な語り掛けをする書である。

この書で扱われているいくつもの箇所の「難解さ」は、ただ原典研究の複雑さのみに由来しているわけでも無いことを拝読して思われる。そうではなく聖書自体が、神の言葉として、たとえシンプルな言葉で語られている場合でも、人間には「理解しにくく」思える「逆説」に満ちていることに「難解さ」が生まれる原因があるものもある。その「逆説」を、人間である翻訳者、時には聖書記者自身が理解できず（福音書間でのイエスの言葉の解釈の違い等）、自らの常識による通念的理解で解釈して記してしまう。パラドクス（逆説）を、ドクサ（臆見）や、さらには「教条」という意味でのドグマに、評者を含め聖書を読むすべての者は変えてしまいかねない。それらを著者は、本来聖書にある神の逆説に一つ一つ丁寧に戻そうと探究している。

評者は説教を神学部で担当しているが、この聖書の「逆説」が説教のどこかに位置付けられることは重要だと考えている。説教学者ユージン・ラウアリは、福音を聞くときにいつも伴う「驚き」を説教の中で再現することが大切だという。それは例えばカール・バルトが1963年のクリスマス説教「しかし、きみたち、勇気を出しなさい：ヨハネによる福音書16：33」で「聖書の中でかくもしばしば私たちに会うあの栄光に満ちた『しかし！』、あの驚嘆すべき『しかし！』」（天野有訳）と語り示す、聖書の「逆説」のことであろう。これがどこにも無ければ、それは「聖書講義」や「お説教」になっても、聖書を語る説教に



はなりにくいと思うのだ。

この逆説、「聖書の真実」は、人間には「難解」なので、「知恵」に満ちているというより「愚かさ」を選んだ神の語り掛けに聞こえる（Ⅰコリ1：18-25、本書172頁以下）。それは、世界や教会を形成するのに効率的ではなく、またそれらの言葉を聞いても「自分磨き」もできそうにない言葉として響きもする。いや深刻なのは、それ自体は本当に追い求めるべき学問的真理、人権、芸術などの探究のプロセスにおいても、それがこの世的な勝利を得ることから遠回りな「愚かな」、まだるっこい、「敗北」（246頁）に至る道に思えてしまう時があることだ。しかし「神は、宣教という愚かな手段によって信じる者を救おうと」（Ⅰコリ1：21）されていることを、評者も近年の世界と教会の驚く変化の中で、また自らの本当に愚かな歩みの中で、実感している。一度、立ち止まるのだ。本当に私たちが必要とするものへ至る道は、これまでの「効率的」な、力まかせの道しかないのか。まだるっこく見えていたかもしれない道の向こうにこそ開ける世界があるのではないのか。そこに教会の明日もあるのではないか。神ご自身が、その『啓示』をすらも相対化してしまうかもしれないような大胆な（148頁）手段を選んで下さったのだから。

そしてその「逆説」、「聖書の真実」こそが人を救う。本書にはマタイ10：29が、新共同訳では「二羽の雀が一アサリオンで売られているではないか。だが、その一羽さえ、あなたがたの父のお許しがなければ、地に落ちることはない。」と訳されているが、原文には『あなたがたの父なしに、すなわち、その父が伴われることなしに、一羽の雀が地に落ちることはない』と書かれている（29頁）ことが指摘されている。この箇所について青野氏が語っているのを昨年NHKラジオの「宗教の時間」で聞き、その時丁度マタイ福音書からある教会で説教をしようとしていた評者は説教で触れた。説教後、愛する人が急に天に召されたばかりのある方が声をかけて下さった。その方が愛した人も、この世を去る時、一人ではなかった、神が伴われたことを受け止めて下さったのだ。私自身には慰めの言葉もなかったが、聖書の言葉がその方を慰めた。青野氏から評者が長年に渡って教授されてきた「聖書の真実」が、また一人の人を救ったし、救おうとしている。この経験はこれからも続いていくのだろう。

— 2024 年度 西南学院大学神学部入試案内 —

【1 年次一般入学（英語 4 技能利用型を含む）】

○出願期間：2024 年 1 月 5 日（金）～1 月 16 日（火） ○試験日：2024 年 2 月 5 日（月）及び 2 月 8 日（木）

1. 神学（献身者）コース（キリスト教会信徒歴＊1 年以上）
2. キリスト教人文学（一般学生）コース（信徒歴は問いません）

【1 年次独自指定校推薦入学】

○出願期間：2023 年 11 月 1 日（水）～11 月 9 日（木） ○試験日：2023 年 11 月 23 日（木・祝）

※キリスト教学校教育同盟加盟の高等学校長または日本バプテスト連盟加盟教会牧師からの推薦を受けた者

【1 年次総合型選抜入学】

○出願期間：2023 年 9 月 20 日（水）～10 月 2 日（月） ○試験日：2023 年 10 月 28 日（土）

※神学部を第一志望とし、入学してキリスト教と聖書を学ぶことを強く希望する者

※高等学校第 3 学年 1 学期（2 学期制の場合は第 3 学年前期）までの全体の評定平均値が 3.8 以上の者

【2 年次転・編入学】

○出願期間：2023 年 10 月 5 日（木）～10 月 13 日（金） ○試験日：2023 年 11 月 3 日（金・祝）

※神学（献身者）コースはキリスト教会信徒歴＊2 年以上を有する者

※大学第 1 学年次修了者（32 単位以上修得または修得見込）、短期大学または高等専門学校卒業者（見込含む）、文部科学大臣の定める専修学校（専門課程）を修了（見込含む）し大学入学資格を有する者

【3 年次転・編入学（学士入学含む）・選科・専攻科】

○出願期間：2023 年 10 月 5 日（木）～10 月 13 日（金） ○試験日：2023 年 11 月 3 日（金・祝）

1. 3 年次転・編入学（学士入学含む）

※神学（献身者）コースはキリスト教会信徒歴＊2 年以上を有する者

※大学第 2 学年次修了者（62 単位以上修得または修得見込）、短期大学または高等専門学校卒業者（見込含む）、文部科学大臣の定める専修学校（専門課程）を修了（見込含む）し大学入学資格を有する者、学士号を取得している者（見込含む）

2. 選科生入学 高等学校卒業以上で 22 歳以上の献身者（バプテスト教会信徒歴＊2 年以上）

3. 専攻科入学 大学神学部卒業（見込含む）の献身者（キリスト教会信徒歴＊4 年以上）

【神学部研修生（聴講生）】

キリスト教宣教の伝道者養成のため、主として社会人を対象とした研修生制度（詳細は教務課（092-823-3305）へお問い合わせください）

＊「信徒歴」とは推薦教会における信仰生活を指します。なお、これらの年限は「日本バプテスト連盟全国壮年会連合奨学金制度に関する規程」のものとは必ずしも一致しておりませんので、お気を付け下さい。

※神学コース志願者は、出願時に①牧師・伝道者としての召命・献身決意書、②所属教会の総会決議に基づく推薦書（伝道所の場合、母教会と伝道所の推薦書）、③所属教会牧師の推薦書（伝道所の場合、母教会と伝道所の推薦書）、④履歴書が必要となります。出願前に必ずキリスト教活動支援課（TEL 092-823-3336）までお問い合わせください。

※外国人留学生入学の制度もあります。お早めにお問い合わせください。

◎神学部入試に関するお問い合わせ*****

入試課 TEL：092-823-3366 FAX：092-823-3388

— 2024 年度 西南学院大学大学院神学研究科 神学専攻博士前期課程及び博士後期課程入試案内 —

【秋期（博士前期課程）】

一般・外国人等（国内居住者）及び社会人

○出願期間：2023 年 7 月 3 日（月）～7 月 14 日（金） ○試験日：2023 年 9 月 2 日（土）

【春期（博士前期課程）】

1. 一般・外国人等（国内居住者）及び社会人

○出願期間：2024 年 1 月 9 日（火）～1 月 18 日（木） ○試験日：2024 年 2 月 24 日（土）

2. 外国人等（国外居住者）

○出願期間：2023 年 10 月 2 日（月）～11 月 6 日（月） ○試験日：2024 年 2 月 24 日（土）

【春期（博士後期課程）】

1. 一般・外国人等（国内居住者）及び社会人

○出願期間：2024 年 1 月 9 日（火）～1 月 18 日（木） ○試験日：2024 年 2 月 23 日（金・祝）

2. 外国人等（国外居住者）

○出願期間：2023 年 10 月 2 日（月）～11 月 6 日（月） ○試験日：2024 年 2 月 23 日（金・祝）

◎大学院入試に関するお問い合わせ*****

大学院課 TEL：092-823-3368 FAX：092-823-3348

2022 年度 開講科目表

【神学部神学科】

科 目	担 当 者
キリスト教神学への招待A	踊 真一郎講師
キリスト教神学への招待B	コーディネーター日原広志准教授
旧約概論A／B	日原広志准教授
新約概論A／B	濱野道雄教授
キリスト教史概論A／B	G. ロドリゲス准教授
組織神学概論A／B	濱野道雄教授
実践神学概論A	才藤千津子教授
実践神学概論B	濱野道雄教授
ヘブライ語Ⅰ・Ⅱ	日原広志准教授
ギリシア語Ⅰ・Ⅱ	石橋誠一講師
外書講読A／B	G. ロドリゲス准教授
旧約釈義C／D	日原広志准教授
旧約神学A／B	原田義也講師
旧約原典A／B	原田義也講師
新約釈義C／D	須藤伊知郎教授
新約神学A／B	須藤伊知郎教授
新約原典A／B	須藤伊知郎教授
教会史A／B	金丸英子教授
教理史C／D	金丸英子教授
バプテスト史A／B	金丸英子教授
教義学A／B	ファン ナムドク教授
キリスト教倫理学A／B	マウンマウンヤイン講師
現代社会とキリスト教	G. ロドリゲス准教授
現代神学A／B	ファン ナムドク教授
フェミニスト神学	コーディネーター日原広志准教授
説教学A／B	濱野道雄教授
礼拝学A	越川弘英講師
牧会学A／B	才藤千津子教授
実践神学A	麦野達一講師
実践神学B	コーディネーター濱野道雄教授
キリスト教社会福祉論	滝口 真講師
総合人間学A／B	G. ロドリゲス准教授
日本キリスト教文学A	桑原理恵講師
日本キリスト教文学B	コーディネーター濱野道雄教授
キリスト教音楽A／B	麦野達一講師
教会音楽研究A／B	福田のぞみ講師
教会音楽研究C／D	福田のぞみ講師
特殊講義（１）	コーディネーター濱野道雄教授
特殊講義（２）	G. ロドリゲス准教授
演習A／B（１）	G. ロドリゲス准教授
演習C／D（１）	才藤千津子教授

演習C／D（２）

宗教学A／B

英会話A／B

宗教心理学A／B

カウンセリングB

西南学院史（１）

宗教科教育法

宗教科指導法Ⅰ・Ⅱ

【神学専攻科】

科 目	担 当 者
旧約学特殊講義A／B	日原広志准教授
新約学特殊講義A／B	須藤伊知郎教授
聖書学特殊講義A／B	原田義也講師
聖書学特殊講義C／D	須藤伊知郎教授
旧約原典研究A／B	原田義也講師
新約原典研究A／B	須藤伊知郎教授
教会史特殊講義A／B	金丸英子教授
教理史特殊講義A／B	金丸英子教授
バプテスト史特殊講義A／B	金丸英子教授
キリスト教社会倫理A／B	マウンマウンヤイン講師
牧会学特殊講義A／B	才藤千津子教授
牧会学実習	才藤千津子教授
牧会心理学A／B	才藤千津子教授
教会形成論特殊講義A／B	濱野道雄教授
教会音楽特殊講義A／B	麦野達一講師
教会音楽特殊研究A／B	福田のぞみ講師
特殊講義（２）	須藤伊知郎教授
特殊講義（３）	麦野達一講師
特殊講義（４）	コーディネーター濱野道雄教授
特殊講義（５）	G. ロドリゲス准教授
特殊講義（８）	ファン ナムドク教授
演習A／B	G. ロドリゲス准教授

【大学院神学研究科】

科 目	担 当 者
新約学特論Ⅰ・Ⅱ	須藤伊知郎教授
教会形成特論Ⅰ・Ⅱ	濱野道雄教授
旧約学特論Ⅰ・Ⅱ	日原広志准教授
キリスト教音楽特論Ⅰ・Ⅱ	麦野達一講師
キリスト教教育学特論Ⅰ・Ⅱ	野口 真講師
バプテスト史特論Ⅰ・Ⅱ	金丸英子教授
牧会心理学特論Ⅰ・Ⅱ	才藤千津子教授
キリスト教神学特論	金丸英子教授
神学研究方法論	金丸英子教授
神学演習	濱野道雄教授、 才藤千津子教授
キリスト教神学実習	濱野道雄教授
臨床牧会実習	松見享子講師

2022 年度 神学部報告

2022 年

- 4 月 1 日 大学入学式、神学部始業礼拝（大学チャペル）、開講講演（黄南徳教授、大学チャペル）、大学院ガイダンス
- 2 日 履修指導、カリキュラムガイダンス
- 4 日 新入生歓迎会
- 7 日 前期授業開始（対面授業）
- 9 日 1, 2, 3 年生合同オリエンテーションキャンプ
- 11 日 学生のための話し合い
- 15 日 東アジア平和センター・福岡主催、神学部協賛、木村公一氏ウクライナについての報告会（西南コミュニティセンター）
- 5 月 9 日 学生のための話し合い
- 18 日 卒論構想発表会
- 6 月 8 日 ジョナサン・マゴネット氏（レオ・ベックコレッジ名誉教授）ロングチャペル
- 13 日 学生のための話し合い
- 13～15 日 連盟第 1 回理事会（Web）
- 17 日 神学校週間を覚える集い（Web）
- 24 日 神学教育に関する委員会（Web）
- 7 月 4 日 マウン・マウン・ヤイン先生ロングチャペル
- 11 日 学生のための話し合い
- 21 日 前期授業終了
- 22 日～8 月 1 日 前期試験
- 8 月 2 日～9 月 21 日 夏期休暇
- 6 日～7 日 オープンキャンパス
- 4 日～9 月 1 日 臨床牧会実習（宣教研究所との協力プログラム）
- 27 日 全国壮年大会（Web, ロドリゲス准教授登壇）
- 9 月 3 日 大学院試験（修士）
- 12 日～14 日 連盟第 2 回理事会（Web）
- 19 日 神学部・東アジア平和センター福岡共催日韓平和ツアー（筑豊）
- 22 日 後期授業開始
- 26 日 学生のための話し合い
- 28 日 常務理事・宣研所長・神学部長協議会、前期卒業式、卒論中間発表会

- 10 月 1 日 秋の親睦会
- 3 日 ミッションデー 日韓・在日連帯特別問題委員会との協力プログラム
- 5 日 伝道者養成に関する協議会
- 12 日 学生とのカリキュラム懇談会
- 17 日 学生のための話し合い
- 19 日～20 日 2・3 年次転編入等試験、奨学金面接
- 11 月 2 日 神学教育協議会
- 7 日 学生のための話し合い
- 21 日 伊藤世里江元 AMC 神学部チャペル説教
- 23 日 1 年次独自指定校等推薦入試、総合型選抜入試
- 25 日 イブニングチャペル・ジョナサン・マゴネット氏（レオ・ベックコレッジ名誉教授）学術講演会（西南学院大学学術研究所主催）
- 12 月 3 日 帰国生等入試
- 7 日 人文学コース生との懇談会
- 9 日 神学部クリスマス
- 12 日 学生のための話し合い
- 23 日 授業終了
- 26 日～2023 年 1 月 5 日 冬期休暇

2023 年

- 1 月 6 日 授業再開
- 10 日 学部卒業論文提出締切
- 16 日 学生のための話し合い
- 20 日 修士論文提出締切
- 20 日 後期授業終了
- 23 日～31 日 後期試験
- 30 日 クリスチャン・アカデミー主催、神学生交流プログラム
- 31 日 卒論最終発表会
- 2 月 6 日～9 日 大学入学試験
- 18 日 協力伝道会議Ⅴ「どげんすつと？宣教協力」（福岡連合、九州バプテスト神学校等との共催）
- 24 日～25 日 連盟総会（Web）
- 24 日 大学院試験（博士）
- 25 日 大学院入試（修士）
- 27 日～3 月 3 日 新任牧師主事研修会（宣教研究所）
- 3 月 10 日～11 日 神学校入学前研修会
- 13 日 実践神学担当者懇談会・近隣教会懇談会・助言者の会
- 17 日 神学部卒業礼拝、パークレー教授最終講義
- 20 日 大学卒業式

新任教員紹介

「藤方玲衣講師のご紹介」

神学部長 才藤 千津子

本年度、神学部では、専任講師として藤方玲衣先生をお迎えしました。先生のご専門は旧約学、特に「ヨブ記」の研究です。

先生は、日本大学芸術学部文芸学科をご卒業になった後、2013年に西南学院大学神学部にて3年次編入されました。2012年には「ヨブ記」と一緒に「神」を考える」という論文で日本大学芸術学部長賞を受賞されました。その後、立教大学大学院キリスト教学研究科キリスト教学専攻博士前期課程に進まれ、2017年に、「ヨブ記 33:15-30（「エリフの部」）におけるחַוּחַ [シャハト] の用法に関する考察—旧約・クムラン写本の用例との比較から」と題する修士論文を提出して修士号を取得されました。現在は、同大学院博士後期課程に在籍し、「ヨブ記」エリフの部と死海写本の関係の研究で博士論文を執筆中です。

「自己紹介」

神学部講師 藤方 玲衣

こんにちは。2023年度より、神学部の教員として着任いたしました、藤方玲衣（ふじかたれい）と申します。日本大学芸術学部にてヘブライ語聖書研究の楽しさに気付き、西南学院大学神学部にて聖書学を学び、立教大学大学院キリスト教学研究科にて研究を続けておりましたが、この度、教員として新たに神学部に加わることとなりました。

主な研究領域は、ヘブライ語聖書（旧約聖書）、第二神殿期ユダヤ共同体の思想（特に死海文書）です。ユダヤ/キリスト教の聖典は、歴史的状況のなかで生成された文書の集成として、そのなかには多種多様（ときには相反する）な思想、神学を包含しているという事実を探索しています。この聖典は、「あれかこれか」ではなく、「あれもこれも」を読者に継承しようとしています。それが、人間のいのちと世界のありのままの姿をうつしているからだと思えてなりません。ヘブライ語聖書のなかでは特に、「ヨブ記」を長らく研究してきました。人間の苦悩を深く抉りつつ問いかけ続けるこの文学には、絶望と希望が交錯します。人間は、神から問われ続ける存在であり、同時に、神に向かって問いかけ続けることができる存在でもあると、ヘブライ語聖書はいつも教えてくれます。

もうひとつの研究対象として、「正統」ユダヤ教の枠組みから外れたところで著作された「クムラン文書」（「死海文書」内の、クムラン共同体独自の文書群）の内容についても関心を持っており、今後更に、第二神殿期のユダヤ共同体思想の多様性について考察してゆきたいと考えています。

聖書は、時代のなかで生み出されたものであり、その解釈も時代と共に変遷してゆくものです。私自身もこの時代を生きながら、「聖書」とどのように相対するべきか悩みつつ模索するちいさなひとりの人間にすぎません。西南学院大学という学究の場で、沢山の出会いや対話を通して研究を深化させることができれば幸甚です。そして願わくは、いのちの神の自由な創造のちからのうねりと生への励ましを、学問を通して皆さまと共有出来たらと思っています。

2022 年度 研究・活動・消息（就任順）

G. W. バークレー 教授

◆説教

- ・福岡ベタニヤ村教会（2022年度毎月第一日曜日）
- ・大学チャペル（2022.4.7、2022.9.22、2023.1.19）

◆消息

- ・西南学院理事長
- ・西南学院大学学長
- ・早緑子供の園園長
- ・西南学院理事
- ・西南学院評議員
- ・アジア・バプテスト神学大学院理事・常任理事
- ・キリスト教学校教育同盟西南地区協議会代表理事
- ・福岡ベタニヤ村教会協力牧師

須藤 伊知郎 教授

◆執筆

- ・「ようこそ西南学院大学へ」『宗教部ガイドブック&サークル紹介：2022年度 宗教部案内』キリスト教活動支援課（2022.4.1）
（https://www.seinan-u.ac.jp/rel/2022_Christian%20Activity%20Guide.pdf）
- ・「黙示録 10 章の大きな天使」神学部学生会誌『道』47 号（2022.10.1）10-11 頁
（<https://www.seinan-gu.ac.jp/rel/Michi2022>）
- ・「ご挨拶」『西南学院大学管弦楽団第 60 回記念定期演奏会プログラム』西南学院大学管弦楽団（2022.12.24）
- ・「資料 1-5. Everett Gill, A. T. Robertson: A Biography」『資料 2-9. 『神は言葉のなかへ E. シュヴァイツァー説教集』』『資料 2-10. Jürgen Roloff, Neues Testament, 3. Aufl.』『図録 学院史のなかの神学部 成立と歩み、そして現在』西南学院大学博物館、西南学院史資料センター（2023.3.1）5、22 頁。
（<http://www.seinan-gu.ac.jp/museum/wp-content/uploads/2022/publish/sin.pdf>）
- ・「序」『2022 年度 チャペル講話集』第 56 号、キリスト教活動支援課（2023.3.20）1-2 頁
（<https://w3.seinan-gu.ac.jp/rel/pdf/2022kouwasyu.pdf>）
- ◆書評
- ・『祈りの糸』を伸ばし、仲間とつながる 〈本・批評と紹介〉朝岡勝、松谷曄介、森島豊編『夜明けを共に待ちながら』教文館、2022 年『本のひろば』2022 年 10 月号（2022.10.1）
（https://honhiro.com/yoake_wo_tomoni_matinagara/）
- ◆講演・発題
- ・第 61 回ミャンマーを覚える祈り会「須藤伊知郎と渡邊さゆりさんの対談」（オンライン、2022.4.8）
（<https://podcasts.apple.com/jp/podcast/あふみんぐとおく-7/id1599529273?i=1000557661031>）
- ・発題「古代以来の神格化の装置としての『国葬』」神学部主催・法学部「ことばの力」養成講座、安全保障関連法の廃止を求める西南学院有志の会共催「公開シンポジウム『国葬』を考える」（於西南コミュニティーセンター、2022.9.27）
（https://drive.google.com/file/d/1hfGP1PR8q5mabo3meGoXvJry_G-CRq3/view）

◆研修会・研修会

- ・北海道地方連合第12回信徒セミナー「体験！神学校 ～じっくり学ぶ新約聖書～ 『神の国』ってなあに？」（オンライン、2022.8.11～12）
- ・福岡女学院全学修養会「キリスト者の歩み ― 共同体にキリストの言葉が宿ることから（コロサイ書3章16節）」（於福岡女学院ギール記念講堂、2022.10.4）

◆説教

- ・全学チャペル講話（2022.4.21、6.23）
- ・神学部チャペル（2022.5.2）
- ・福岡西部教会神学校週間主日礼拝説教（2022.6.26）
- ・福岡西部教会主日礼拝説教（2022.7.10）
- ・福岡女学院大学ロングチャペル（2022.10.5）
- ・松山西教会牧師就任式説教（2022.10.9）

◆消息

- ・大学宗教部長
- ・西南学院理事
- ・西南学院評議員
- ・大学チャペルパイプオルガン管理運用委員長
- ・大学聖書植物園管理・運営委員長
- ・大学情報処理センター委員
- ・西南学院管弦楽団部長
- ・日本新約学会理事
- ・西日本新約聖書学会理事
- ・日本聖書学研究所所員
- ・日本基督教学会理事
- ・NTJ新約聖書注解シリーズ監修（福音書行伝グループリーダー）
- ・安全保障関連法の廃止を求める西南学院有志の会（<http://seinan-gu.jimdo.com>）呼びかけ人
- ・市民連合ふくおか呼びかけ人代表
- ・福岡西部バプテスト教会員

金丸 英子 教授

◆執筆

研究ノート

- ・「日本で最初に伝えられたバプテストによる教会観と信徒観—Hezekiah Harbey, The Church: Its Polity and Ordinances より—」（神学論集第80巻 第1号、2023.3）
- ・「『信徒の教会』と教会の教育的役割—フィンドリー・エッジから刺激を受けて—」（神学論集第80巻 第1号、2023.3）
- ・「教会の歴史における『信徒理解』の変遷の概観—初代教会から初期バプテスト」（神学論集第80巻 第1号、2023.3）
- ・「Bold Faith」（神学部学生会『道』）
- ・「バプテスト資料室開設にあたって—資料を古紙に、資料室を倉庫にしない—」（西南学院アーカイヴズ Vol.1, 学校法人西南学院、2023.3.）
- ・「マイアンサー」（Spirit、2022.）
- ・「正しい答えは何のために」（西南学院大学2022年度チャペル講話集、2023.3）
- ・資料紹介「The Complete Works of Andrew Fuller: With a Memoir of His Life」、「Baptist Confessions of Faith」（2022年度西南学院大学博物館・西南学院史資料センター連携企画展 研究室訪問シリーズIV、2023.1）

◆公開講座

- ・東京バプテスト神学校夏期公開講座「バプテストの教会形

成I：今一度バプテストの教会について考えてみる」（於東京・茗荷谷教会、2022.8.11-12）

- ・東京バプテスト神学校冬期公開講座「バプテストの教会形成II：バプテストとして建てる信仰者の教会」（於東京・茗荷谷教会、2022.12.26-27）

◆説教

- ・神学部チャペル説教（於大学チャペル、2022.4.11）
- ・大学チャペル講話（於大学チャペル、2022.12.8）
- ・福岡バプテスト教会主日礼拝（於福岡バプテスト教会、2022.9.25）

◆消息

- ・大学院神学研究科科長
- ・大学院委員会委員
- ・大学院FD委員会委員
- ・大学図書館委員
- ・西南学院史委員会委員
- ・一麦奨学金委員会委員
- ・大学神学寮寮監
- ・西南学院大学寮運営委員会委員
- ・大学全学点検評価委員会委員
- ・西南学院資料センター運営委員会委員
- ・西南学院資料センター資料保存・運営委員会委員長
- ・西南学院資料センターアーカイヴズ編集委員会委員長
- ・関東学院大学キリスト教と文化研究所客員研究員
- ・Baptist World Alliance Commission on Baptist Heritage and Identity member
- ・Baptist World Alliance Commission on Baptist Doctrine and Christian Unity member,
- ・福岡バプテスト教会員
- ・日本基督教学会会員
- ・日本キリスト教史学会会員
- ・アメリカ学会会員
- ・American Association of Religion 会員
- ・American Society of Church History 会員
- ・Baptist History and Heritage 会員
- ・Baptist Historical Society 会員
- ・Commission on Baptist Heritage and Identity, Baptist World Alliance
- ・Commission on Baptist Doctrine and Christianity, Baptist World Alliance

日原 広志 准教授

◆執筆

- ・「『献身』の主体は『キリストのからだなる教会』」神学部学生会誌『道』第47号（2022.11）

◆論文

- ・「ヘブライ語聖書における疫病と神」『西南学院大学神学論集』第80巻第1号（2023.3）1～32頁

◆翻訳

- ・ジョナサン・マゴネット「権力に対して「虚偽」を語る—ダビデの王位を救った政治的陰謀—」『西南学院大学神学論集』第80巻第1号（2023.3）113～134頁
- ・ジョナサン・マゴネット「ゴリアトに不公平？—よく知られた聖書物語の再読—」『西南学院大学神学論集』第80巻第1号（2023.3）135～154頁
- ・ジョナサン・マゴネット「『魂』を表す聖書の言葉」（Jonathan Magonet, “The Many Biblical Words for

’Soul’”) 大学チャペル講話当日配布資料 (2022. 10. 20)

◆講演・発題

- ・日本バプテスト連盟 2022 年度神学校入学前研修会主題講演「神学するとは」(Zoom による、2023. 3. 10)

◆説教

- ・福岡有田バプテスト教会 (22. 8. 21、11. 20)
- ・神学部チャペル (2022. 7. 11、12. 5)
- ・神学校入学前研修会閉会礼拝 (2023. 3. 11)

◆消息

- ・日本旧約学会員
- ・日本基督教学会員 (九州支部会幹事)
- ・大学学科主任
- ・大学学術研究所委員
- ・大学論集編集委員
- ・大学聖書植物園管理運営委員
- ・大学一般教育委員
- ・大学院委員
- ・大学授業評価検討委員
- ・大学親交会委員長
- ・大学教員組合執行委員
- ・福岡有田教会員

濱野 道雄 教授

◆執筆

- ・「教会学校を越えて教会教育を考える」、『聖書教育』2022 年 7. 8. 9 月号、日本バプテスト連盟 (2022. 5. 20)
- ・「教会の礼拝事例紹介を振り返って～応答コメント」、『礼拝さいこう』No.25、日本バプテスト連盟 (2022. 6. 14)
- ・「無責任なリベラルでもなく、不勉強な保守でもなく」、『西南学院大学神学部報』第 59 号、西南学院大学神学部 (2022. 6. 15)
- ・分担執筆『光あれ ～混沌の地に生かされて～ 東日本大震災から 10 年の証言集』、日本バプテスト連盟現地支援委員会 (2022. 10. 31)
- ・「G. W. バークレー教授退職記念号 学部長謝辞」、『神学論集』、西南学院大学神学部 (2023. 3. 31)
- ・「ナッシュビル宣言と Nbus について」、『性差別問題特別委員会ニュースレター』第 35 号、日本バプテスト連盟性差別問題特別委員会 (2022. 3. 15)

◆論文

- ・「天皇制に対する神学的批判の諸論拠」、『神学論集』、西南学院大学神学部 (2023. 3. 31)

◆書評

- ・「片山寛著『中世キリスト教の七つの時』」、『西南学院大学神学部報』第 59 号、西南学院大学神学部 (2022. 6. 15)
- ・「飯島信編著『いのちの言葉を交わす時 青年のタベ』感話集』、キリスト新聞社 Web (2023. 2)
- ・「日本賛美歌学会 アメリカカナダ賛美歌学会 100 周年記念国際大会訪問プロジェクトチーム編『The Hymn Society in Japan, Let a Tiny Stone Shout Out: Imagining New Japanese Hymns』」、『礼拝さいこう』No.27、日本バプテスト連盟 (2022. 3. 14)

◆講演・発題

- ・「天皇制に対する神学的批判の諸論拠」、日本基督教学会 関東支部・九州支部会 (合同開催)、(於 Web、2022. 3. 24)
- ・「教会の次の一步を考える ― コロナ後、『教会』離れ、信徒協力伝道」、第 27 回東京地方壮年連合研修会、(於目白ケ

丘教会、2022. 7. 23)

- ・「痛みを共に：韓日被爆者そして私たちの連帯」、東アジア平和センター・福岡主催『あれから 77 年 日本と韓国の被爆者と今』(於ふくふくプラザ、2022. 8. 5)
 - ・パネリスト「ともに祈り、ともに歩む ～宣教の視野の拡がり～」、第 57 回 (2022 年度) 全国壮年大会 (於 Web、2022. 8. 27)
 - ・「共に喜び、共に泣く ―異なるままに、共に生きる」、『中国・四国バプテスト教会連合全体修養会』(2022. 9. 23)
 - ・「国葬に反対する神学的理由」、西南学院大学神学部主催『公開シンポジウム：「国葬」を考える』(於西南コミュニティセンター、2022. 9. 27)
 - ・「死生論 ～キリスト教の視点から～」、メンタルケア・スペシャリスト養成講座 (於早良市民センター、2022. 10. 16)
 - ・「教会の礼拝のあり方について」、宣教研究所主催『バプテスト研究班「コロナ状況下における教会形成」』(於 Web、2023. 1. 30)
 - ・「『国葬』と信教の自由」、日本キリスト教団九州教区熊本地区社会部委員会主催『信仰の自由を守る日 特別講演会』(於日本基督教団 熊本草葉町教会、2023. 2. 11)
 - ・「『良いヤマトンチュ』の神学を求めて：加害者の依存脱却、そして神の民へ」、沖縄宣教研究所・富坂キリスト教センター共催『第 5 回共同研修会 「植民地主義と神の国の宣教 V ～国家と信仰～」』(ぎのわんセミナーハウス、2023. 2. 21)
 - ・「小さな者が 1 人でも失われることは、御心ではない ～キリストに忠実であるとは、今日どういうことか考える～」、西南学院大学宗教部主催『2022 年度 (第 52 回) ファカルティ・リトリート』(於大学チャペル、2023. 2. 27)
- ◆研修会・研修会
- ・「バプテストとその礼典 (バプテスマ、主の晩餐) の在り方」、神戸教会研修会 (於神戸教会、2022. 12. 25)
 - ・「按手 (礼) 式の学び会」、緑の牧場キリスト教会『按手 (礼) 式の学び会』(於 Web、2023. 2. 26)
- ◆説教
- ・神学部 始業礼拝 (2022. 4. 1)
 - ・神学部 オリエンテーションキャンプ開会礼拝 (2022. 4. 9)
 - ・鳥栖教会 主日礼拝 (2022. 10. 2、2022. 11. 20、2022. 12. 18、2022. 1. 7)
 - ・沖縄バプテスト連盟 東風平教会主日礼拝 (2022. 10. 23)
 - ・沖縄バプテスト連盟 東風平教会 安里道直牧師就任感謝・按手式 (2022. 10. 23)
 - ・神戸教会 クリスマスイブ礼拝 (2022. 12. 24)
 - ・神戸教会 クリスマス礼拝 (2022. 12. 25)
 - ・諫早キリスト教会 向山満牧師就任感謝礼拝 (2023. 3. 21)
- ◆消息
- ・大学神学部長 (2020. 4-2022. 3)
 - ・西南学院 評議員 (2020. 4-2022. 3)
 - ・鳥栖キリスト教会協力牧師
 - ・日本バプテスト連盟 東日本大震災被災地支援委員会委員
 - ・日本バプテスト連盟 神学教育に関する委員会委員
 - ・日本バプテスト連盟 全国壮年会連合神学部奨学金委員会
 - ・日本バプテスト連盟 宣教研究所バプテスト研究班メンバー
 - ・日本バプテスト連盟 公害問題特別委員会協力委員
 - ・日本バプテスト連盟 性差別問題特別委員会協力委員
 - ・福岡地方バプテスト連合 社会委員会委員
 - ・福岡地方バプテスト連合 宣教会議「どげんすつと、宣教協力」実行委員

- ・東京バプテスト神学校 特別委員会分科会A委員
- ・日本基督教学会会員
- ・日本基督教学会 九州支部幹事
- ・日本新約学会会員
- ・日本宣教学会会員
- ・日本実践神学会会員

才藤 千津子 教授

◆執筆

- ・エッセイ『『臨床牧会教育運動の父』アントン・ボイセン』西南学院大学神学寮 『道』 47号(2021.10)
- ・メッセージ「チームとして働く～伝道者養成教育における教会との協働」『バプテスト誌』(2023年1月号)
- ・西南学院大学博物館 2022年度企画展「学院の中の神学部―成立と歩み、そして現在―」提供資料の解説と神学部における教育研究活動紹介 (2023.3.1発行)

◆論文

- 「コロナ危機における喪失経験とパストラルケア」西南学院大学 『神学論集』第80巻1号 (2023.3.31)

◆講演・発題

- ・発表「出会いを生きる神学～バザール・カフェと榎本てる子さんが提起したもの」キリスト教教育とカウンセリング研究会 (於大名クロスガーデン、2022.9.13)
- ・発題「神学教育における教会との協働―ある事例から」日本バプテスト連盟神学教育協議会 (オンライン、2022.11.2)
- ・講演「危機の時代を生きる私たちの希望」2022年度南九州バプテスト大会 (オンライン、2023.1.21)
- ・発題「日本バプテスト連盟福岡地方連合協力伝道会議V どげんすつと？宣教協力」分科会⑧「ハラスメント (～ベキ、～ねばならない) の強要」 (春日原キリスト教会、2023.2.18)

◆説教・奨励

- ・日本バプテスト連盟平尾バプテスト教会・大名クロスガーデン主日礼拝 (2022.5.29, 10.23)
- ・大学チャペル奨励 (於大学チャペル、2022.11.30)
- ・神学部チャペル説教 (於大学チャペル、2022.12.19)
- ・西南学院大学 2022年度 (第52回) ファカルティ・リトリート奨励 (於大学チャペル 2022.2.27.)

◆消息

- ・Pastoral Psychology 誌 編集委員 (2013.7～現在)
- ・平尾バプテスト教会協力牧師 (2018.5～現在)
- ・社会福祉法人久山療育園評議員 (2018.～現在)
- ・社会福祉法人福岡いのちの電話スーパーバイザー (2018.9～現在)
- ・嶋田宣教師ご家族教育支援会会長 (2020.4～2023.4)
- ・日本実践神学会運営委員 (2022.4～現在)
- ・大学宗教部委員
- ・大学国際センター委員
- ・大学点検評価委員
- ・大学学生相談室運営委員
- ・一麦奨学金委員会委員
- ・日本バプテスト連盟 福岡地方連合「ハラスメント防止・啓発・情報窓口」担当

G. ロドリゲス 准教授

◆執筆

- ・Contemporary religion and church issues: Lessons from William Kiffin. 『西南学院大学神学論集』第80巻、第1号 (2023.3)

◆随筆

- ・「中世について映画を見て、現代の問題を考える」『道』47号 (2022.10)

◆翻訳

- ・ラビ・ジョナサン・マゴネット 学術講演会 通訳 (学術研究所、2022.11.25)

◆講演・発題

- ・「現代社会と教会の課題―大西先生の講演を受けて」第57回全国壮年大会 (Zoomにて、2022.8.27)
- ・大学改革ミニフォーラム・シンポジウム発表 (西南学院大学、2022.7.6)

◆説教

- ・大学チャペル講話 (2022.10.5)
- ・神学部チャペル説教 (2022.5.23)

◆消息

- ・早良キリスト教会員
- ・大学学生主任
- ・大学国際化検討委員
- ・大学キャリアセンター委員
- ・大学保健委員
- ・大学『神学論集』編集委員
- ・大学言語教育センター運営委員
- ・日本基督教学会員
- ・「宗教と社会」学会員
- ・国際宗教社会学会員

ファン ナムドク 教授

◆講演・発題

- ・西南学院大学神学部開講 (2022.4.1)
- ・「日本軍慰安婦、何が問題なのか」(於日本キリスト教会福岡城南教会、2022.4.10)
- ・「アジア平和構想: 東アジア平和センター・福岡の活動を中心に」(於糸島デモクラシー塾、2023.1.25)
- ・「東アジア青年平和運動に向けた展望と課題」(於聖フランシスコ平和センター、韓国、2023.3.14)

◆説教

- ・日本キリスト教会福岡筑紫野教会主日礼拝 (2022.8.14)
- ・日本キリスト教会福岡城南教会主日礼拝 (2022.8.14、2023.2.12)
- ・神学部チャペル (2022.9.26)
- ・日本バプテスト連盟福岡国際キリスト教会糸島集会主日礼拝 (2023.1.29)

◆消息

- ・大学国際センター委員
- ・日本キリスト教会エキュメニカル宣教協力者
- ・日本キリスト教会九州中会ヤスクニ問題特別委員会委員
- ・日本キリスト教会九州中会青年部委員会委員
- ・東アジア平和センター・福岡センター長
- ・日韓反核平和連帯会員

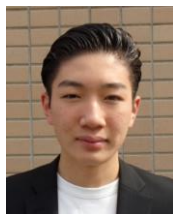
2023 年度 西南神学生だより

新年度が始まり、新たな仲間と共に新しい歩みがスタートしました。私たちを学び舎に送り出し、また祈りや様々な支援でもって支えてくださっている全国の教会・伝道所の皆様には、心から感謝申し上げます。今年度の神学部・大学院神学研究科の神学生を紹介します。私たちのことを少しでも身近に感じていただければと思います。



大学院博士前期2年 原田 仰
推薦教会：平尾バプテスト教会
研修教会：久留米荒木キリスト教会

とうとう最終学年となりました。ここまで本当に沢山の方々に祈り、支えられてきました。主の祝福と皆様のご厚意に感謝しつつ、最後の学びに集中する一年としたい所存です。昨年は「バプテスト」とは何かを歴史、諸教会との出会いを通して考えてきました。「聖霊」の導きに信頼し聖書に向き合っていく信仰者の姿と、変化の中で神様の導きを信じながら勇気ある決断をしていく今の、これからの教会の姿が重なります。私もそのような信仰者であるよう神様に信頼し歩みます。



神学部3年 長尾 基詩
推薦教会：府中キリスト教会
研修教会：福岡国際教会

神学部にて2年を過ごし、ようやく神学というものの全体像が見えてきたところです。その上で自分が深めたいと思うテーマも与えられました。昔、友人に「罪とは何か？」と問われたことがあります。あの時は答えられなかった問いに今、全身全霊を聖書に傾けて答えを聴いていきたいと考えています。

教会での出会い、霊的な交わりに救われ、支えられて生きていることを感じる日々です。諸教会の皆様の祈りとご支援に感謝します。



大学院博士前期2年 吉田 睿濫
推薦教会：松本福音村バプテスト教会
研修教会：福岡ベタニヤ村教会

神学生期間を過ごせば過ごすほどその中身がより濃いものへと変わっていくようで、ますます主の素晴らしいご計画の中で守られていることを感じます。本格的に論文に集中する一年となるかと思いますが、これまでの5年間ありとあらゆる場面で生じた神学的問いを論文という領域で扱い、今後ぶつかるであろう新たなテーマと、にらめっこしながら忠実に準備します。何よりも、主だけを見上げて今日主が驚くべき業をなさっていることを仰ぎ見たい、そう強く願っています。



選科1年 石原 誠
推薦教会：常盤台バプテスト教会
研修教会：鳥飼バプテスト教会

神学生の為に祈り、お支えくださり感謝いたします。昨年は神学部研修生として名前を連ねさせて頂きましたが、今年度からは神学部選科生になります。不安ばかりの昨年とは違い、今は主が備えてくださる一つひとつの事柄にワクワクしております。それは主が、私にとっての最善を与えてくださるからです。昨年の研修も恵みの時でしたし、家族と離れて生活している今この時も、私だけでなく家族みんなの備えの時であると感じています。常に主を信頼し、主が与えてくださった貴重なこの時間を大事に歩んで参ります。



神学部4年 奥田 悟
推薦教会：東京北キリスト教会
研修教会：福岡城西キリスト教会

みなさまの祈りと支えを心より感謝いたします。神学生として2年目を迎え、学部4年次となりました。卒業論文では「バプテスト教会のバプテストマ理解」といった内容を取り組んでいく事を楽しみつつ、掘り下げていこうと思っています。バプテストが誕生して四百年余り、引き継いだものと失ったものと、現在地から歴史に学びつつ、これからを展望、展開していく今であります。先立つ主のみ声を聞いて、今年度も研鑽に努めさせていただきます。

学生会の組織改革に伴い、アドレスが変更になります。神学部学生会へのお問合せは s25aa006@seinan-gakuin.jp <会長アドレス> までお願いします。